

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた単元構想〈算数〉

特別研修員 算数 田村 知己（小学校教諭）

単元名 『角柱と円柱の体積』（第6学年） 全5時間計画 単元のねらい

図形を構成する要素に着目し、基本図形の体積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ確かな表現に高め、公式として導くことができるようにする。

学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫を取り入れた単元構想

本単元では、立体図形の体積に関わる数学的活動から、基本的な角柱及び円柱の体積を計算によって求めたり、図形を構成する要素に着目して基本図形の体積の求め方を見いだしたりします。そのために、であう過程では、既習事項の立体を体積が求められるものと求められないものに分ける活動を設定します。追究する過程では、立体の体積の求め方を振り返り、簡潔かつ確かな表現に高めて公式として導いていきます。つかう過程では、立体を組み合わせた図形の体積を求め、単元で学んだことを活用して課題を解決させることで立体への理解を深められるようにします。

立体模型を利用し、対話を取り入れた学習活動

過程

主な学習活動

活動のポイント

であう(1)

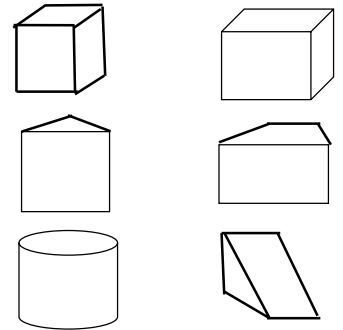
1 新たな学習内容にふれ、単元の課題を立てる。

- 既習事項の立体を、体積の求められるものと、求められないものに分ける。
- 単元の課題を見いだす。

【単元の課題】

直方体や立方体の体積は求めることはできるが、角柱や円柱の体積の求め方は、どうすればよいのだろうか。

立体の体積への興味・関心をもたせる。



5年生までの知識で、体積を求められるものと求められないものを分けることで、興味・関心と今後の見通しをもたせる。

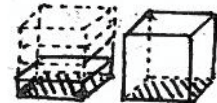
追究する(2)

2 体積の求め方を「底面積×高さ」として捉え、角柱や円柱の体積を求める。

- 三角柱の体積を、直方体の体積の求め方を基にして考え、「底面積×高さ」で求める。
- 円柱の体積を、角柱の体積の求め方を基にして考えて、「底面積×高さ」で求める。
- 角柱、円柱の体積を求める際に、底面積の積み重ねが体積になることを確認する。
- 体積の求め方について、自分の捉え方やイメージについて、ペアや班で伝え合う。



体積の捉え方を変える。



体積の求め方を、底面積が積み重なったイメージとなるように、トランプを実際に積み重ねて、視覚的に捉えられるようにする。

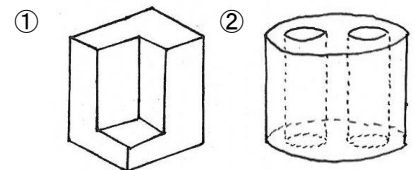
つかう(2)

3 角柱、円柱の体積の求め方を活用する。

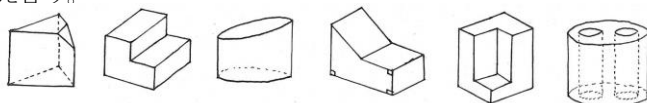
- 角柱や円柱などの立体の体積を求める問題について、ペアや集団で考えを伝え合う。
- 複数の立体を示し、公式を使用して体積を求めることができるかどうか、考える。
- 立体の模型を用意し、手に取りながら考え、自分の考えを立体も使いながらペアや班で伝え合う。



公式の有用性を実感させる。



①②の立体を中心に話し合う。①は底面が積み重なっていない立体、②は底面が積み重なっている立体である。体積を求める過程から、②は「底面積×高さ」で求めることができ、公式の便利さが実感できるようにする。



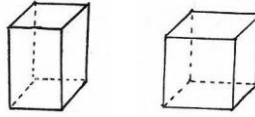
指導例：『角柱・円柱の体積』（第6学年 第1時）

1 新たな学習内容に触れ、めあてを設定する。

○問題を把握する。

<問題>ア〜カについて、体積の求められる立体と、まだ求められない立体に分けましょう。

ア



T：今まで体積の求め方を学習した立体はどれでしたか

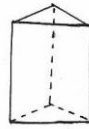
S：5年生のときは、直方体と立方体。

S：直方体と立方体の体積は、どう考えて

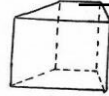
S：縦×横×高さだった。

S：その他の立体は、どのように体積を求めるのかな。

イ



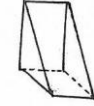
オ



ウ



カ



<めあて>直方体、立方体の体積を求めましょう。また四角柱、円柱の体積はどのようにしたら求められるか考えましょう。

2 既習の知識及び技能、経験を基に解決する。

○個人で問題を解決した後、全体で考え方を共有する。

S：立方体や直方体の時は1cm³が幾つ分あるか考えて体積を求めていたな。

S：直方体の体積は「縦×横×高さ」で求めていたな。

S：立方体の体積は、「一辺×一辺×一辺」で求めていたね。

T：直方体や立方体の体積は、どうしてこの式で求められるのでしょうか。

S：1cm³の立方体が、底面に敷き詰めて何段重なっているかを基に考えた。

3 新たな学習内容と関連する既習内容との共通点や相違点を見いだす。

○立体の体積の求め方を、イメージと共に式で捉える。

T：底面の面積と、高さ1cmの四角柱との体積を比べてみましょう。

S：底面の面積は縦×横で求め、高さを掛けると体積になるが、高さが1cmなので、値は同じになる。

T：底面の面積を、底面積といいます。

S：高さが1cmの四角柱において、単位は違うけれど、底面積と体積を表す数は同じになるのだな。

S：高さが1cmの四角柱が積み重なっていくと考えれば、直方体や立方体の体積は、「底面積×高さ」の式で求められるね。

<まとめ>直方体、立方体、四角柱の体積は、「底面積×高さ」の式で体積を求めることができる。

4 本時を振り返り、単元の課題を立てる。

T：今日の授業で気付いたことやこれから学習したいことを、まとめてみましょう。

S：底面の面積のことを、底面積というのだね。

S：直方体や立方体の体積は、「底面積×高さ」という式で求められることが分かった。

S：今まで「縦×横」で求めていたものが、底面積というのだね。

S：その他の立体の体積の求め方はどうするのかな。

指導のポイント

既習とは違う立体を確認し
新たな問いを見いだす

○複数の立体の図と具体物を提示することで、立体への興味を高め、児童の中からどのように体積を求めればよいかという問いを表出させる。

今までの学びを生かすために
話し合い活動を取り入れる

○立方体や直方体の体積の求め方など既習事項を想起させることで、体積についての捉え方を見直すとともに、新たな立体の体積の求め方について、見通しをもたせる。

既習事項を生かして
新しい考え方を捉える

○四角柱の体積を求めるときに、体積の求め方の式の「縦×横」と、高さが1cmの立方体の体積が同じであることを確認し、具体物を見ることで、立方体が積み重なって体積が求められる、というイメージをもたせる。

単元の課題を見いださせる

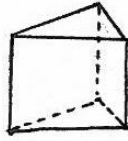
○本時の学習を振り返り、「このようなときはどうするのかな」のような新たな問いにつながるような発言を引き出し、次時への興味、関心を高めるようにする。

指導例：『角柱・円柱の体積』（第6学年 第2時）

1 学習を把握し、めあてを設定する。

○問題を把握する。

<問題>図のような三角柱の体積の求め方を考えましょう。



○問題場面や式を確認する。

- T：立方体の体積を求めたとき、どのようなイメージをもちましたか。
 S：高さ1cmの四角柱が積み重なって体積が求められるイメージだった。
 T：他にどのような見方をしましたか。
 S：高さ1cmの四角柱の体積を「底面積」と見て、四角柱の体積は、「底面積×高さ」の式で体積を求めることができた。
 S：同じイメージをもてば、三角柱の体積を求めることはできるかな。

<めあて>今までの学習したことを使って三角柱の体積を求めるには、どうすればよいのか。

2 めあてを追究する。

○個別に問題解決に取り組み、解決方法を集団で共有する。

- S：四角柱の半分と考えて、体積を求めることができる。
 S：四角柱と同じように、高さ1cmの三角柱が積み重っていく立体と捉えらると、体積を求めることができる。
 S：同じように、底面積の積み重ねと捉えらると、体積を求めることができる。

3 学習をまとめる。

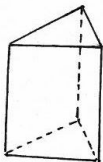
- T：今までに学習した中からは、どのような考えが使えましたか。
 S：三角柱の体積を求めるときには、四角柱の半分の体積と見れば、求めることができる。
 S：底面が積み重なって立体ができている、という考えを基にすれば、角柱の体積は、「底面積×高さ」の式で体積を求めることができる。
 S：式としてまとめると、「底面積×高さ」という式になり、この式で体積を求めると、簡単に求められる。

<まとめ>角柱の体積は、「底面積×高さ」の式で求めることができる。

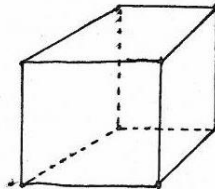
4 学習の振り返りとして、適用問題に取り組む。

<適用問題>下の図のような角柱の体積を求めましょう。

①



②



- T：適用問題を行ってみて、気付いたことはありますか。
 S：三角柱の体積は、角柱の体積を求めるイメージであり、「底面積×高さ」で求められることが分かった。
 S：角柱の体積を求めるときは、底面積を明らかにし、高さが1cmの角柱の積み重ねや、底面積が高さの分、積み重なっていくイメージをもつことが大切であると思った。

指導のポイント

めあてを児童のものにするために
問いを表出させる

○前時に学習した内容である、立方体の体積の求め方と比較させることによりつながりを意識させる。

解決への見通しを
十分にもたせる

○児童からは、①四角柱を半分にする考え
②三角柱が積み上がっていく考えの2通りが想定される。それぞれの意見を比較・検討することを通して、「底面積×高さ」の式を使うと簡潔かつ明瞭に体積を求められることに気付かせる。

具体物を使い、体積を求める
公式のよさを感じさせる

○具体物を使いながら、「底面積×高さ」の公式で体積を求めることができるか、また公式を用いる場合、底面積をどの面で捉えればよいのかという視点から、児童に説明させる。

学びの理解を確認するために
適用問題で振り返らせる

○適用問題によって技能の習得を図るとともに、振り返りでは、「底面積×高さ」で体積を求められることのよさを、自分の言葉で振り返られるようにする。

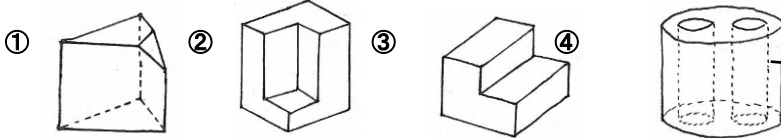
指導のポイント

指導例：『角柱・円柱の体積』（第6学年 第5時）

1 学習を把握し、めあてを設定する。

○問題を把握する。

<問題>①～④の立体の中で「底面積×高さ」の公式を使って体積を求められるのはどれでしょう。



○問題場面や式を確認する。

T：前時に「底面積×高さ」の公式を学んだとき、イメージしたものは何だろう。

S：トランプ(一つの平面)が積み重なって、立体が作られるイメージだった。

S：底面積が積み重なって作られる立体が、「底面積×高さ」の公式で体積を求めることができる立体だった。

<めあて>「底面積×高さ」の公式を使って体積を求められる立体はどのような立体だろうか。

2 めあてを追究する。

(1) 個別に追究し、解決方法や結果を全体で共有する。

S：公式を使うために大切なことは何だろう。

S：底面と高さを実際に立体の模型を使いながら考えてみよう。

S：底面が積み重なっている立体はどれだろう。



(2) 考えを深める。

S：①の立体は、底面が積み重なっていないから体積を求められない。

S：③の立体は、見方を変えると、底面が積み重なっているから、公式を使って体積を求められる。

T：②や④の立体はどうですか？

S：④は、底面を穴の空いた円と見れば、底面が積み重なっているから、公式を使って体積を求めることができる。

S：②は、「底面積×高さ」の公式を使って体積を求められそうだけど…。

S：②は、底面の積み重なりという視点で見ると、積み重なりは途中で途切れているので、公式を使って体積を求めることはできないよ。



3 学習をまとめる。

T：公式を使って体積を求めるために、ポイントとなったことはどのようなことですか。

S：立体の体積を求めるときに、「底面積×高さ」の公式を利用するには、「立体は、底面の積み重なりでできている」という見方が大切でした。

<まとめ>底面が積み重なってできている立体は、「底面積×高さ」の式で体積を求めることができる。

4 学習を振り返る。

T：今日の授業で気付いたことや、今後行ってみたいことをまとめてみましょう。

S：底面が積み重なっていると見ることができる立体の体積は、公式を利用して簡単に求めることができる。

S：体積の求め方は、トランプなどが積み重なるイメージをもつと、分かりやすいね。

S：複雑な立体でも、公式を使って求められる立体を作ってみたい。

単元で学んだことを活用できる問題を設定する

○既習事項を生かして解決できるような問題を設定し、今までの学びを活用するよさを、実感できるようにする。

具体物を利用して、既習事項を使った解決方法を考えさせる

○複数の立体の図を示し、同時に具体物も提示することで、児童の興味を引き、どのように考えていくかをイメージさせて、本時のめあてにつなげていく。

公式の根拠を、具体物を使って説明させる

○①～④の図形を使い、底面と高さを明らかにすることで、公式「底面積×高さ」で体積が求められることができるかを説明し合うようにする。

学びを実感させるために視点を与えて振り返らせる

○問題解決の際に自分が考えたことを図や言葉を工夫してまとめる活動を通して、これまでに学習したことの内容を整理し、今後活用していこうとする意欲を高めるようにする。

算 数 科 学 習 指 導 案

令和元年6月 第6学年 指導者 田村 知己

I 単 元 名 「角柱と円柱の体積」

II 学習指導要領上の位置付け

第6学年 B図形 B（4）角柱及び円柱の体積

（4）立体図形の体積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

（ア）基本的な角柱及び円柱の体積の計算による求め方について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

（ア）図形を構成する要素に着目し、基本図形の体積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。

III 目 標

立体図形の体積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア、イは、「II 学習指導要領上の位置付け」に同じ

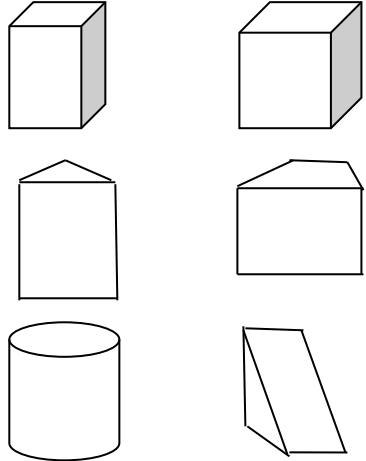
ウ 角柱や円柱の体積の求め方について、直方体の体積の求め方を振り返り、よりよい解決法を求めて粘り強く考えたり、公式のよさに気付き、学習したことを生活や学習に活用したりしている。（学びに向かう力、人間性等）

IV 指導計画 ※別紙参照

V 本時の展開（1／5 であう）

1 ねらい 直方体、立方体の体積の求め方を振り返ることを通して、角柱の体積の求め方に着目し、単元の課題を見いだすことができるようにする。

2 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
<p>1 新たな学習内容に触れ、めあてを立てる。（5分）</p> <p>○立体の図を提示し、立体の名称を確認する。</p> <div data-bbox="188 510 874 640" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈問題〉図の立体を、体積の求められる立体と、まだ求められない立体に分けましょう。</p> </div> <p>○図の立体を、体積の求め方を学習したものと、していないものに分ける。</p> <p>○三角柱、四角柱、円柱の体積の求め方は、まだ学習していないことを確認する。</p> <p>〈問い〉三角柱、四角柱、円柱の体積はどうやったら求められるかな…。</p> <div data-bbox="188 990 1423 1052" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈めあて〉三角柱、四角柱、円柱の体積はどのようにしたら求められるだろうか。</p> </div>			
<p>2 既習の知識及び技能、経験を基に解決する。（10分）</p> <p>○個人で問題解決に取り組みせ、答えを求めるだけではなく、求め方の説明も考えさせる。</p> <p>○見通しがもてない児童には、1 cm³の模型を通して、この立体を基に体積を求めていたことについて想起するよう助言する。</p>			
<p>3 新たな学習内容と関連する既習内容との共通点や相違点を見いだす。（10分）</p> <p>○既習事項である直方体、立方体の体積の求め方について、「縦×横×高さ」と「一辺×一辺×一辺」であることをペアで確認する。</p> <p>○第5学年では底面に敷き詰めた1 cm³の立方体が何段重なっているかを基に、体積を導きだしたことを想起させる。</p> <div data-bbox="188 1639 1423 1758" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>直方体、立方体の体積を求める方法を基にして、角柱、円柱の体積を求めようとしている。</p> <p style="text-align: right;">〈ノート・発言（1）〉</p> </div>			
<p>4 本時を振り返り、単元の課題を立てる。（5分）</p> <div data-bbox="188 1863 1423 1982" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈単元の課題〉直方体や立方体の体積は求めることはできるが、角柱や円柱の体積の求め方はどうすればよいのだろうか。</p> </div>			

※残り 15 分は「追究する」過程に進む。

V 本時の展開 (2/5 追究する)

1 ねらい 三角柱の体積を、直方体の体積の求め方を基にして、「底面積×高さ」の式で求められることを理解できるようにする。

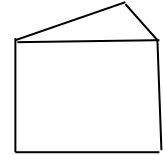
2 展開

学習活動(分) ○:留意点 点線囲:評価 ☆:振り返りの子供の意識

1 学習を把握し、めあてを設定する。(5分)

○四角柱の体積は、「底面積×高さ」の式で求められたことを確認する。

〈問題〉図のような三角柱の体積の求め方を考えましょう



〈問い〉どのようにして三角柱の体積を求めるのかな…。

〈めあて〉今までの学習したことを使って三角柱の体積を求めるにはどうすればよいのか。

○前時まで学習した直方体の体積を求める式や、式がでてきた考え方を、トランプ(一平面)を重ねた立体模型を見ることで想起させる。

2 めあてを追究する。(25分)

(1) 個別に追究し、考えを全体で共有する。

○見通しがもてない児童には、直方体の体積を求める式が出てきた過程を振り返り、直方体の体積や、体積の求め方の考え方が利用できないか、助言する。

○直方体の半分の体積と見て、それを基に三角柱の体積を求められることに気付かせる。

○高さ1cmの三角柱が重なっていると考えて、「底面積×高さ」の式で体積を求められる。

(2) 考えを深める。

○直方体の半分の体積としたのか、底面積×高さとしたのか考え方を伝え合う活動を設定する。

○直方体の半分として捉えても、高さ1cmの三角柱が積み重なったと捉えても、答えが同じになることを確かめ、三角柱の体積の求め方を確認する。

○立体の体積の求め方について、第5学年の内容である「縦×横×高さ」の求め方で問いを解く児童には、「縦×横」が「底面積」に当たると捉え直し、角柱の体積は底面積と高さの積で表せることを確認する。

三角柱の体積は「底面積×高さ」で求められることを説明できる。 〈ノート・発言(2)〉

3 学習をまとめる。(5分)

〈まとめ〉角柱の体積は、底面を明らかにすることで「底面積×高さ」の式で求められる。

4 学習の振り返りとして、適用問題に取り組む。(10分)

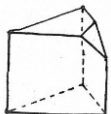
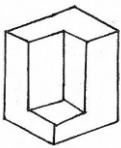
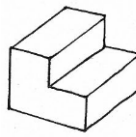
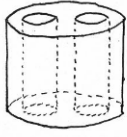
〈適用問題〉三角柱、四角柱の体積を求めさせ、解き方を確認する。

☆三角柱の体積の求め方を考えることを通して、角柱の体積は「底面積×高さ」の公式で求めることが分かった。

V 本時の展開 (5/5 つかう)

1 ねらい 「底面積×高さ」の公式で体積を求められる立体を考察する活動を通して、自分の考えを他者に分かりやすく説明できるようにする。

2 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの子供の意識
<p>1 学習を把握し、めあてを設定する。(5分)</p> <p>○角柱、円柱の体積は、「底面積×高さ」の公式で求められたことを確認する。</p> <p>○複数の立体を提示し、どの立体の体積が「底面積×高さ」で求められるかを考えさせる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">① </div> <div style="text-align: center;">② </div> <div style="text-align: center;">③ </div> <div style="text-align: center;">④ </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈問題〉①～④の立体で「底面積×高さ」の公式を使い体積を求められるのはどれでしょう。</p> <p>〈問い〉底面と高さが捉えられれば公式を使って体積を求められると思う立体はどれかな…。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>〈めあて〉「底面積×高さ」の公式を使って体積を求められる立体はどのような立体だろうか。</p> </div> </div>			
<p>2 めあてを追究する。(30分)</p> <p>(1) 個別に追究し、考えを全体で共有する。</p> <p>○個人で問題解決に取り組ませ、なぜそう考えたか、理由の説明も考えさせる。</p> <p>○見通しがもてない児童には、トランプを積み重ねた立体の模型を示すことで、底面積の積み重ねで「底面積×高さ」の公式が出てきた過程を想起させる。</p> <p>(2) 考えを深める。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 70%;"> <p>○「底面積×高さ」の公式を使って体積を求められる立体と、選んだ理由を近くの人とペアになって伝え合う活動を設定する。</p> <p>○理由をまとめることができたペアは、模型を使っての説明を練習させる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>円柱、角柱の体積を求める公式を利用して問題を解決し、自分の考えを他者に説明している。</p> </div> <p style="text-align: right;">〈ノート・発言(4)〉</p> </div> <div style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>②と④を議論の中心として取り上げる。</p> </div> </div>			
<p>3 学習をまとめる。(5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈まとめ〉「底面積×高さ」で体積を求めることができる立体は、底面が積み重なってできている立体である。</p> </div>			
<p>4 学習を振り返る。(5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈单元全体の振り返り〉角柱・円柱と見ることができ立体は「底面積×高さ」の式で体積を求められることが分かった。</p> </div>			

指導計画 算数科 第6学年 単元(題材)名「角柱と円柱の体積」(全5時間計画)

目標	立体図形の体積に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 ア(知識及び技能) ・基本的な角柱及び円柱の体積の計算による求め方について理解すること。 イ(思考力、判断力、表現力等) ・図形を構成する要素に着目し、基本図形の体積の求め方を見いだすとともに、その表現を振り返り、簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導くこと。 ウ(学びに向かう力、人間性等) ・角柱や円柱の体積の求め方について、直方体の体積の求め方を振り返り、よりよい解決法を求めて粘り強く考えたり、公式のよさに気付いて、学習したことを生活や学習に活用したりしている。			
評価規準	(1)身の回りにある角柱や円柱に関心を持ち、体積を調べようとしている。 (2)角柱や円柱の体積の求め方について、直方体の体積の求め方から類推し、図や式を用いて考え、表現している。 (3)角柱や円柱の体積を、公式を用いて求めることができる。 (4)角柱や円柱の体積は、底面積×高さにまとめられることを理解している。			
過程	時間	○ねらい めあて	☆振り返り(意識)	◇評価項目 (方法(観点))
であう	1	○直方体、立方体の体積の求め方を振り返ることを通して、角柱の体積の求め方に着目し、単元の課題を見いだすことができるようにする。 三角柱、四角柱、円柱の体積はどのようにしたら求められるだろうか。 ○四角柱の体積の求め方は底面積×高さで求めることができることを理解できるようにする。	☆直方体の体積の求め方を考えることを通して、角柱の体積は底面積×高さの式で求められることを理解できた。	◇角柱の体積を底面積×高さの式で表そうとしている。 (ノート、発言(1))
追究する	1	○三角柱の体積を、直方体の体積の求め方を基にして考え、底面積×高さで求められることを説明できるようにする。 今までの学習したことを使って三角柱の体積を求めるにはどのようにすればよいのか。	☆三角柱の体積の求め方を考えることを通して、角柱の体積を底面積×高さの式で求められることが分かった。	◇三角柱の体積を、底面積×高さの式を利用して説明することができる。 (ノート、発言(2))
	1	○円柱の体積を、角柱の体積の求め方を基にして考え、底面積×高さで求めることができるようにする。 円柱の体積の求め方を考えましょう。	☆角柱の体積の求め方の考え方を使い、円柱の体積も、底面積×高さの式で求められることを理解し、求めることができた。	◇円柱の体積を、底面積×高さの式を利用して計算することができる。 (ノート、発言(3))
	1	○直方体を組み合わせた図形の体積を、角柱と見て、底面積×高さの式で求められることを理解できるようにする。 立体の体積を、公式を使って求めてみよう。	☆直方体を組み合わせた立体の体積も、角柱と見て、底面積×高さの式で求めることができた。	◇円柱、角柱の体積を求める式を利用して計算することができる。 (ノート、発言(3))
つかう	1	○立体の体積が「底面積×高さ」の公式で求められるものの理解を深められるようにする。 「底面積×高さ」の公式を使って体積を求められる立体はどのような立体だろうか。	☆円柱、角柱と見ることができる立体は「底面積×高さ」の式で体積を求めることができる。	◇円柱、角柱の体積を求める公式を利用して問題を解決している。 (ノート、発言(4))